

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人アクロス福岡	
施 設 名	福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	8,581	(千円)
	公 演 事 業	7,754 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	827 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ヤマト meets classics	令和2年4月29日※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,200
		福岡シンフォニーホール		実績値	—※
2	こどものためのオペラ 「花咲かじいさん」	令和2年8月1日※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,100
		福岡シンフォニーホール		実績値	—※
3	アクロス弦楽合奏団	令和3年3月23日※	出演：景山誠治、山本友重、瀬崎明日香 田中雅弘、市寛也、占部由美子 他	目標値	1,200
		福岡シンフォニーホール		実績値	616 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	令和2年度 アクロス・学校キャラバン	令和2年9月11日～ 令和3年1月29日※	出演：佐藤仁美（ヴァイオリン） 田中美江（ピアノ） 他	目標値	600
		福岡県内小学校		実績値	373 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当劇場・音楽堂が期待される社会的役割（ミッション）は、大きく3つ。

A 地域住民（県民）に世界一流の音楽・舞台芸術を提供 B 芸術文化に携わる人の育成と本県文化の発信
C だれもが等しく文化芸術を創造・享受できる環境整備（社旗包摂事業）

しかし、令和2年3月に「福岡県文化芸術振興条例」が制定され、条例では「あらゆる人が等しく文化を享受できる機会と場の提供」、「文化芸術の枠を超えた多彩な分野との連携」を主に掲げることとなった。「福岡県の文化振興の文化振興の拠点施設である福岡県国際文化情報センター（アクロス福岡）の機能を高め、県民に質の高い文化を提供する。さらに、障がいの有無や経済状況等に左右されることなく、あらゆる人が等しく文化を享受できる環境整備に努め、県民の心豊かな生活と活力ある地域社会の実現を目指す」ことをミッションとして再設定し、下記の採択事業を適切に進めた。

【公演事業】

新型コロナウイルス感染症の影響により、企画した3事業の内2事業が中止となった。①「ヤマト meets classics」は音楽ジャンルの嗜好が異なる聴衆を取り込むべく企画した事業で、地元の九州交響楽団が演奏。指揮者に宮川彬良、ゲストヴァイオリンには篠崎史紀と、国内屈指の実力を誇る出演者であったが、感染状況が厳しくなった4月だったため中止。②「こどものためのオペラ」は子育て世代の親子が安心して劇場に来場できる機会を提供するほか、障がいをもった子どもたちも参加しやすい環境を整えた事業で、社会的必要性がある企画であったが、安全を第一に中止となった。③「アクロス弦楽合奏団」は8月の予定を3月に延期して実施。国内トップクラスの奏者と地元九州交響楽団奏者や若手演奏家などが共演。研鑽の場となることで、芸術性の高い良質の音楽を地域住民へ提供することができた。また、県内へのアウトリーチ公演も実施し、音楽鑑賞の機会を提供することができた。

【普及啓発事業】

「アクロス学校キャラバン」では福岡県内の小学校と特別支援学級にアウトリーチ事業を実施。障がいの有無や経済状況等に左右されることなく、あらゆる人が等しく文化を享受できる社会包摂事業を適切に実施した。新型コロナウイルスの影響により当初予定していた訪問回数20回は減少し12回となったが、学校側の協力もいただきながら、感染症対策を万全にして事業を継続することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

【文化的意義】

「アクロス弦楽合奏団」事業では国内トップレベルの音楽家の良質な音楽を。また「学校キャラバン」事業では県内の小学生や障害をもった児童への音楽鑑賞・体験型ワークショップを交え、その地域を担う次世代の子どもたちへの音楽普及活動を実施できた。

【社会的意義】

アウトリーチ活動は地域からの希望も多く、県内遠隔地へできるだけ多くの回数を実施している。また、特別支援学級への訪問では対象者によって内容を変えるなど臨機応変に実施し、信頼を得ている。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

本事業に応募した3事業の内「アクロス弦楽合奏団」事業について下記目標達成状況を記した。

※残念ながらその他2事業は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

①【収益について】(チケット販売額: 60%未満 自己財源率: 40%未満)

・新型コロナウイルス感染症の影響により当初の予定時期より延期。社会情勢も自粛ムードが漂い、目標は未達となった。

②【観客について】(学生・次世代観客の獲得 学生券販売枚数: 32枚)

・従来の高年齢層だけでなく、若年層、特に学生等、次世代観客の獲得に努めた。結果、学生券の販売で目標(29枚)を達成した。

③【運営】(収入層のための施策 幹旋販売: 114枚)

・収入増のための施策の検討・工夫や事業の有効性を高める工夫に努め、幹旋販売等で成果を挙げた。

また、財団の理念【社会的役割(ミッション)】を実現させる事業として実施。アウトリーチ事業の実施や新型コロナウイルス感染症対策を万全にし、来場者も出演者も安心して参加できるように運営。目標を達成した。

④【広報】(公演前後の媒体への掲載: 西日本新聞、読売新聞)

・記事での紹介は難しかったが、告知欄への演奏会情報は度々取り上げられた。目標は達成した。

【普及啓発事業】

目標応募校は達成したが、実施校数は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した学校があり、目標未達となった。

◆目標応募校: 40校に対し65校の応募となった。

今年度実施予定数: 20カ所の目標に対し12カ所実施。

学校キャラバン事業は、1回あたりの参加者上限を50人程度とし、会場も体育館ではなく、音楽室等の演奏家と身近に接することができる空間を利用。参加型の要素を取り入れるので、1回の参加人数は大幅に増やすことはできない。

◆応募学校数

・応募数: 65校 目標40校に対し【達成率162%】

◆実施学校数

・実施数: 12カ所 目標20回に対し【達成率60%】※新型コロナウイルス感染症の影響による中止や変更があった為。

・学校キャラバンは県内の小学生を対象に一流の演奏家による楽器演奏体験を行うアウトリーチ授業。

・1回あたりの参加者数上限を50名程度とし、会場も体育館などの大規模空間ではなく音楽室など、演奏家と身近に接することができる空間を利用する。

・新型コロナウイルス感染症への対策を万全に実施したため、実施校をこれ以上増やすことができなかった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業の内2事業については新型コロナウイルスの影響により公演中止。残り1事業と普及啓発事業も事業実施日を変更するなど影響がでたが、変更後の事業期間・事業費とも適切に遂行できた。

公演1【ヤマト meets classics】

◆事業期間【計画】2020年4月29日(水)

【実績】新型コロナウイルスの影響により中止

◆事業費【計画】9,002千円

【実績】1,687千円(△7,315千円)やむを得ずキャンセルできなかった費用のみ計上

公演2【こどものためのオペラ「花咲かじいさん」】

◆事業期間【計画】2020年8月1日(土)

【実績】新型コロナウイルスの影響により中止

◆事業費【計画】4,622千円

【実績】427千円(△4,195千円)やむを得ずキャンセルできなかった費用のみ計上

公演3【アクロス弦楽合奏団】

◆事業期間【計画】2020年8月23日(日) リハーサル:8月17日~20日

アウトリーチ:8月21日(金)鳥栖市文化会館 8月22日(土)なかもハーモニーホール

【実績】2021年3月23日(火)※新型コロナウイルスの影響により延期

リハーサル:3月19日~22日 アウトリーチ:3月24日(水)なかもハーモニーホール

※鳥栖へのアウトリーチは中止(新型コロナウイルスの影響による)

◆事業費【計画】9,620千円

【実績】6,004千円(△3,616千円)日程延期に伴う出演者の変更や一同集まったのリハーサル時間の短縮などにより、計画していた出演費・宿泊費等の支出が大幅に減少したため。

普及啓発【アクロス・学校キャラバン】

◆事業期間【計画】2020年6月5日(金)~2021年1月29日(金)計20回実施

【実績】2020年9月11日(金)~2021年1月29日(金)計12回実施

※新型コロナウイルスの影響により実施日程および回数を変更しての実施

◆事業費【計画】2,165千円

【実績】1,626千円(△539千円)実施回数が減少したことによる出演費の減。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点として一流の音楽芸術公演の提供のほか、県内のアウトリーチ事業「学校キャラバン」を実施した。地域の期待に応えていくため、特に関係団体との連携・協働を図った。

●視点1・文化拠点としての機能を最大限に発揮するための【資源】

(1) 劇場音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物

- ・景山誠治（ヴァイオリニスト）：アクロスヴァイオリンセミナー講師、桐朋学園大学教授
1984年ロン＝ティボー国際コンクール最高位

アクロス福岡では定期的なマスタークラス「アクロスヴァイオリンセミナー」にて若き才能の発掘に力を注ぐほか、「学校キャラバン」では地域への音楽振興を図る。また「アクロス弦楽合奏団」の中心メンバーとしても活躍。地元の九州交響楽団の協力のほか、国内トップレベルのオーケストラ（N響、都響、読響、日フィル、東フィルなど）や指導者、ソリストとして活躍する著名演奏家をアクロス福岡へ集結。定期演奏会を通じて地域の聴衆に国内トップレベルの演奏を披露する。

(2) 関係団体との協働

- ・九州交響楽団：公演1「ヤマト meets classics」出演（コロナの影響により中止）
 - ・西日本オペラ協会：公演2「こどものためのオペラ」出演（コロナの影響により中止）
 - ・NPO法人とびうめの会：公演2「こどものためのオペラ」運営ボランティア（コロナの影響により中止）
- ※その他、行政からは【福岡県教育委員会】の協力により普及「学校キャラバン事業」を実施している。

(3) 創作活動に関わる建築設備等

- ・福岡シンフォニーホール：世界的演奏家の名演を支えてきた九州を代表する音楽ホールのひとつ。音響の良さに定評をいただいている。公演3「アクロス弦楽合奏団」では、ホールの響きの美しさを存分に活用し好評を得た。

(4) 安全のための取組

- ・アクロス福岡のビル管理会社と「アクロス福岡共同防火防災管理協議会」を設置。施設全体で連携を緊密にしながら訓練を実施し危機管理体制を強化。消防機関より「防火対象物特例認定」を受けている。

●視点2・文化拠点としての機能を最大限に発揮するための【事業】

(1) 公演、普及啓発の企画内容、芸術性

公演3「アクロス弦楽合奏団」事業は、福岡シンフォニーホールを拠点に芸術性の高い公演を定期的実施していくことで、地域での音楽文化の向上を図り、安価で良質な音楽鑑賞の機会を提供している。出演者は、景山誠治氏を中心に、国内のトップ奏者である田中雅弘、山本友重、瀬崎明日香や百武由紀などが参加。他にも地元の九州交響楽団奏者やアクロスヴァイオリンセミナー卒業生が参加。若手演奏家の研鑽にも繋がっている。

また、普及「学校キャラバン事業」では地域の小学生や特別支援学級に訪問する体験型のアウトリーチ公演を実施。訪問アーティストには国内でも一流の演奏家を起用し、プロの生演奏や楽器体験の機会を創出した。

(2) 文化芸術情報の蓄積、提供、発信

情報誌「ACROS」やチラシ等の紙媒体をはじめ、ホームページやSNSなどWEBの活用により効果的な広報を展開。アンケート結果の分析や広報活動の検証も行き、広報戦略に沿った広報を推進している。

WEB会員制度の導入を機に、ホームページやメールマガジン中心としたこれまでの取組に加え、LINE登録やチャットビジョン、デジタルサイネージ等の新たなデジタル媒体を活用。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【ステークホルダーの期待】

地域の文化拠点として、世界一流のオーケストラや歌手による音楽芸術の提供のほか、当助成対象活動の「普及啓発事業」として採択され実施したアウトリーチ事業「学校キャラバン」などをバランスよく企画した。

当施設の強みとして、アクロス福岡では設立団体や地域の期待に応じていくため、アクロス福岡単独での事業企画に留まらず、関係団体・民間事業者との連携・協働の強化も図ってきた。

区分	連携・協働先	連携・協働内容
音楽団体	九州交響楽団、西日本オペラ協会 など	地元プロの音楽団体との信頼関係の構築、共同事業の実施
行政	福岡県、福岡市	世界一流の演奏家から、地域に根ざしたもの、社会包摂事業などをバランスよく協働して企画
マスメディア 民間事業者	新聞、TV、ラジオ、ネット 一般企業	・広報、宣伝 ・共同主催、共催、協賛方式による事業量の確保
ボランティア	ボランティア、NPO法人 とびうめの会	・公演事業の協働運営 ・文化芸術に携わる人材の育成

その結果、大型公演を共に実施できるパートナーの存在、費用の分散による事業収支の改善、事業量の確保、企画の多様化、民間事業者に対する文化振興機会提供の増大などがアクロス福岡の強み・特色となり、質の高い大型公演の招聘、リスクが大きく取り上げにくいと言われる無名の優れたアーティストの紹介、連携施設間での共同事業の展開、民間事業者による文化芸術事業の継続性の確保などにその成果が現れている。

そして特に、鑑賞型事業だけではカバーできない地域に対する企画として、下記のように音楽振興の裾野の拡大に務めた。

協働先	内容
福岡県教育委員会、 県内市町村・文化施設	学校現場へのアウトリーチ「学校キャラバン」ほか

以上のように、地域の文化拠点施設として地域の文化芸術の発展に寄与することができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当財団組織が標榜する「3つの理念」のうちの一つに「芸術文化を支える人の育成」がある。社会的役割を遂行するためには、持続可能な運営体制と財政基盤の強化が必要である。

【人材面】

●職員の確保と配置

- ・アートマネジメント職員の採用（音楽の経験や企画・マネジメント能力のある専門的人材は不可欠）
事業グループ12名の内5名がアートマネジメント職員として活動。

●人材育成プラン（年間の研修計画を策定し、持続可能な人材育成に努める）

- ・「基本研修」財団を運営していく上で必要不可欠な知識習得を目的。（ミッションの共有、危機管理）
- ・「専門研修」業務上必要な専門性の確保。（全国公立文化施設協会や福岡県職員研修所への参加）
- ・「階層別研修」組織を担う人材を育成。（中堅職員研修、リーダーシップ研修、管理職向け研修など）

【財務面】

財務基盤の強化では、福岡県からの指定管理料のほか、福岡市からの「自主文化共催事業実行委員会負担金」の基、福岡県と福岡市が共催して行う文化振興事業の実施に充てている。自主財源を確保しつつ効率化を一層進めながら収支管理の徹底を行い、強固な財政基盤の確立を続けていく。具体的な効率化として、事業にかかる従来からのチラシなど印刷物による広報、情報提供、発信を見直し、WEBやSNSの活用を一層進め、また事務にかかる帳簿類の見直しを行い、ペーパーレス化を進めていく。一時的ではない長期的な視点で、環境・社会・経済に配慮した持続可能な事業運営を実施し、賛同者からの寄付金・協賛金による収入増に繋げたい。

【各方面とのネットワーク】

他施設との人材交流にも積極的に推進し、「九州類似ホール連絡会議」「コンサートホール連絡会議」等へ参加し、事業連携に繋げている。

九州類似ホール連絡会	大分総合文化センター、佐賀市文化会館、アルカス佐世保 長崎ブリックホール、熊本県立劇場、宮崎県立劇場、鹿児島宝山ホール、霧島国際音楽ホール、アクロス福岡 など
コンサートホール企画連絡会議	札幌コンサートホール、すみだトリフォニーホール、所沢ミュージック新潟りゅーとぴあ、京都コンサートホール、アクロス福岡

【施設面】

アクロス福岡は開館から25年が経過し、抜本的な設備更新が必要であることから、「福岡シンフォニーホール」の14か月の大規模改修を実施。（2021年8月1日～2022年9月30日まで）安心できる魅力ある施設を持続的に維持・進化させていく。

■計画（P）と実行（D）に対する検証（C）と改善（A）へ

これらの成果の検証・改善も必要であることから「職員人事評価シート」や「事業評価シート」の作成と面談や、外部からの「評議委員会」による事業検証や、「公社等外郭団体経営評価」を実施。現状の能力や事業実績に対する改善を行い、新たな目標・計画に生かすサイクルを着実に回していく。